

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが

住んでよかつた  
と思える川西市に...

たんぽぽだより

市会議員団控え室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



# たまるストレス、一刻も早い復興を願って

## 「炊き出し美味しい」「マフラー暖かい」

### 東日本被災地の視察、支援活動報告

解体を待つ住宅

兵庫県日本共産党「東日本救援女性バザー実行委員会」は11月15日から3日間、福島県郡山市と宮城県仙台市を訪問し、支援活動と視察を行いました。参加者は24人で、私(黒田)は、3回目、4か月ぶりの被災地入りです。(ブログ「たんぽぽだより」で写真などご覧下さい。)

1日目は郡山市にある川内村と富岡町の方がお住まいの「南一丁目仮設住宅」を3人一組で300世帯を訪問。兵庫県産コシヒカリを持って「あす炊き出しします」と案内しながら現状や要望をお聴きしました。

#### 不安な「帰村宣言」

川内村

川内村は「帰村宣言」が出され、引越された家や自宅を歩き来されている方もあります。しかし、いまだにライフラインは復活しておらず、仕事がない(生計が成り立たない)のに帰村宣言されたこと。また、来年2月に医療費補助が打ち切られるなど見通しがいいのに「被災者」でなくなってしまうことへの憤り、不安、展望を持ちたいという願いが切実に語られました。

#### 2度目の冬

あきらめの声も

2度目の冬を迎え、仮設住宅の「寒さ」と「狭さ」への訴えは切実です。「もう1年8か月だからねえ」という馴れとあきらめ



修復された堤防とそのまの標識

儀なくされていることは想像できません。

#### あの日、

何も知らされず

「原発の爆発をこの目で見て10日経ってから避難した。なぜ、知らされなかったのか」「あの日は、東電から何の放送もなく、何が起こったのか全く教えてくれなかった。避難先で何やら機械で計られたけどその意味もわからなかった」「自分達住民が後回しにされたことも後からしかわからなかった」

#### 折れ曲がった標識...

大津波の爪痕

3日目は、大津波で被害を受けた仙台市若松区、荒浜地区の現場に行きました。中野小学校に避難した人達をフェリーが救助したお話を聞き、学校周辺のたく

「4年帰れない...とか聞かされた。ほんとは帰りたいよ。ほんとに帰れるのか」「家に帰ったけど家の中はもうぐちゃぐちゃだよ。屋根が落ちてる家もあるしね」。絶対安心だと思っていたのに、前が見えない苛立ち...。淡々と語られる言葉がより現実の厳しさを伝えてくれます。

#### 炊き出しに

うれしい笑顔

翌2日目は支援の方も増え、朝から兵庫県特産・揖保の糸のバチにゆう麵の炊き出し、玉ねぎ・じゃがいも・みかん・神戸の水、手編みマフラーなどをお配りしました。良いお天気にも恵まれ、集まった皆さんの笑顔がとっても嬉しかったです。「足の悪い人の分も」とお鍋を持つて来てくださったたり、「マフラー温かいよ」と首に巻いて見せに来てくださったたり、「遠い所から来てくれてありがとう」と声をかけていただいたり、兵庫物が無事お届け完了となりました。



### 黒田の声

「自民・公明党対民主党対第三局」新聞の大きな見出し。ん？ ほんまかいな...。自・公・民政権への不満、憤りのはけ口としてマスコミ受けの良い橋下氏に期待を集めようと必死の様相。

維新の会は府議会で過半数、市議会では公明党が加担して過半数...。やったことは文化・市民生活切り捨て。思想調査など独裁的なやり方にも下降線の兆し。

今度は東京都知事を投げ捨てた石原氏とくっついた。憲法を改悪し、より傲慢に政治を押し進めようとしている。

河野洋平前衆議院議長がうまいこと言うてはる。

「本当に第三局でしょうか。みんな言ってることは憲法改正、右向きです。右よりの人達の固まりがもう一つできたというところ。ほとんど新味もない」

本当の対決軸って、自民党型焼き直し連合対日本共産党じゃないの？

「税と社会保障の一体改革」政府試算で年収500万円、標準4人家族で消費税増税分が11万5千円、社会保険料や税の負担増分が31万円。

消費税に頼らない別の道を選ばなければ日本共産党しかないじゃないの！

# 60年続いた自民党型政治— 本物の改革で断ちきるとき

## 衆院解散 総選挙来月4日公示・16日投票

### 「提案し、行動する党」 日本共産党の躍進を

#### 東京・新宿 志位委員長が訴え

「60年続いた自民党型政治を断ち切る『ホンモノの改革』に取り組み、日本の

未来を開く選挙にしよ。新宿駅西口で志位氏の解散後第一声で、総選挙



衆院解散を受けた街頭演説で、志位和夫委員長の訴えを聞く人たち11月16日、東京・新宿駅西口

の焦点がどこにあるかを太く明らかにし、日本共産党の躍進を力強く訴えました。

冒頭、志位氏は、今回の解散は野田内閣が国民の批判と怒りに追い詰められた結果だと強調。すみやかな解散を求め続けてきた党として、「意気高くたたかいた抜き、議席増をめぐってがんばり抜く」と決意を表明しました。

野田佳彦首相が解散の条件とした衆院比例定数削減について「切られるのは民意です」と批判し、「身を削る」といながら政党助成金には指一本触れず、血税をもらい続けるのはどういふことか」と反問しました。そして、日本共産党が17年間、受け取りを拒否してきた助成金総額は3550億円以上になることを紹介

し、「政治の特権をただすなら政党助成金こそ撤廃せよ」と迫りました。そのうえで志位氏は、「民主党にはたまされた。でも自民党に戻るのもいや。日本をどうするのか」という有権者の思いに触れ、民主党政権が国民の期待を完全に裏切り、自民党とうり二つの政党になったのはなぜかと問いかけ。国民多数が反対の消費税増税や原発再稼働を強行した根っこには「財界中心の政治」があり、環太平洋連携協定(TPP)推進と米軍機オスプレイ配備に突き進んだ根っこには「アメリカいいなりの政治」があると説明しました。

そして、民主党政権失敗の最大の原因は、「アメリカいいなり」「財界中心」という「二つの悪態」を特徴とする自民党型政治から抜け出す立場も意思もなかったことだと強調しました。

自民党型政治のルールが敷かれたのは1952年の日米安保条約発効にさかのぼります。志位氏は、60年も続いた「古い政治」はいよいよ耐用年数が尽き、日本が解決を求められている問題に何一つ答えを出せず、展望をせせなくなっていると強調しました。

「いよいよ、60年続いた自民党型政治の『二つの書

悪』を断ち切るホンモノの改革に取り組みときです」と力説した志位氏。日本共産党はあらゆる分野で改革のビジョンを提案し、実現のために行動していると述べ、「提案し、行動する党。日本共産党」を大躍進させてください」と力をこめると、「がんばれ」の声と大きな拍手がわき起こりました。

「財界中心の政治」「アメリカいいなりの政治」を断ち切る改革を進めれば、どんな展望が開けるか。志位氏は、▽消費税増税中止法案を可決するために全力

を尽くし、消費税に頼らず社会保障、経済、財政をよくする▽「即時原発ゼロ」を実現する▽TPPをストップして日本の経済主権を守りぬく▽オスプレイ配備撤回、米軍基地の全面撤去をすすめる▽憲法9条を生かして平和外交で世界に貢献する一途が開けることを、熱をこめて語りました。そして、「1世紀近い歴史で試された党―日本共産党―、21世紀の日本の未来を安心して託すことができる散」を演じる一方、「筋を政党です」。志位氏の訴えに、聴衆は大きな拍手で応えました。

## 消費税増税にノーの審判を

景気後退局面の中で、消費税率を引き上げることには、どんなでもない愚策です。

「毎日」の世論調査では、92%が「増税が暮らしに影響する」と答えています。



### 暮らし・経済・財政を壊す

民意を踏みつけにし、日本経済に悪影響しか与えない大増税は、「民自公増税連合」によって強行されました。しかし、増税が実施されるのは14年からです。「消費税増税ノー」の国民の審判を下し、政治のあり方を変えるチャンスはこれから訪れます。「消費税大増税の実施を許すな」の一点で、国民的なたたかいは広げることが大切です。

「消費税増税ノー」の旗

その第一は、消費税の増税を強行した「民自公増税連合」に「ノー」の審判を下すことができます。

第二は「消費税に頼らない別の道」に踏み出すことができます。一石二鳥です。「消費税に頼らない別の道」でこそ、国民が豊かになり、暮らしも日本経済も好転させ、財政も再建させていくことができます。

